

期末評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 次年度への方策等
<p>○ICT 機器の活用のための研修会を行いタブレット端末を含めた効果的な活用を検討し改善した。</p> <p>○生徒が安心して学習に取り組めるように教室環境を整えた。良好な学級集団を育成するためにhyperQUを利用した研修会を行い、個々の生徒理解を深め学習指導に役立てた。</p> <p>▽授業の分かりやすさについて、学校評価アンケートを利用して分析を行い授業改善する。</p>	<p>●デジタルドリルを月曜日と水曜日の朝、各自の課題に基づいて行っている。この学習状況を各教科で確認し、弱点分野を授業の中で補充していく。</p> <p>●定期考査の学習計画を立てることにより、生徒一人ひとりに主体的に学習に取り組む力を身に付けさせる。</p> <p>▼ディスプレイ型電子黒板の活用方法を研究し、生徒によりわかりやすい授業を行う。</p>

期末評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 次年度への方策等
<p>【国語】</p> <p>○新宿区学力調査の意識調査の結果において、「意見共有から、新しい考えをもつ」「表現を工夫し、心情や情景を伝える」「自身の言葉を推敲する」への肯定的な回答者が8割を超えており、書く・話す・聞く等の言語活動を授業に積極的に取り入れたことによる成果が見られた。</p> <p>○新宿区学力調査の結果においては、どの領域の問題においても区の平均値を上回ることができた。</p> <p>▽意識調査の結果において、特に肯定的な回答が低かった項目は、「読んだ本を日常生活に生かす」ことに関する項目であり、読書習慣に関する課題が見えた。</p> <p>▽領域に関わらず、記述式の問題においてA層とD層の正答率の差が大きく、90%近い差がついた設問もあった。</p>	<p>●書く・話す・聞く等の活動を、それぞれ書き方・話し方・聞き方として学び、その後に「相手を想定させる」ことで、実践的な活動として引き続き行っていく。</p> <p>●生徒の学力向上への効果を継続するためにも、副読本やドリルパークを活用し、領域や個に応じた指導をさらに発展させていく。</p> <p>▼生徒の多様化も踏まえて、生徒の読書習慣への指導と図書紹介を授業内で意識的に強化していく。また、学校図書館や朝読書の時間と連携し、より実態に即した読書活動の啓蒙をしていく。</p>
<p>【数学】</p> <p>○授業アンケートにおける肯定的回答（学年別）は、「少人数指導のレベルは自分にあっている」が83～89%、「質問への対応は丁寧である」が85～92%、「少人数指導は発言しやすい」79～88%であり、習熟度別指導のクラス編成が、生徒の実態に即して効果的に行えていると考えられる。</p> <p>○新宿区学力調査において、平均正答率がすべての単元、観点で区平均を上回ることができた。</p> <p>▽新宿区学力調査において、各問題におけるA層とD層の正答率の差が、ほとんどすべての学年・単元・領域において50%を上回っている。校内での学力差が顕著に表れている。</p>	<p>●習熟度別指導は、生徒の学習意欲の向上、基礎学力の定着に効果が出ていると考えられる。今後も単元テストを行い、生徒に自身の理解度を細やかかつ客観的に把握させたうえで、クラスの再編成を行うなど、今までの取り組みを継続させるとともに、主体的・協働的な活動の充実を図っていく。</p> <p>▼少人数指導を活用し、各層に応じた指導を行うことで、それぞれの課題を克服していく。A層においては、話し合い活動や発表活動をより充実させ、思考・判断・表現の力を伸ばしていく。C～D層においては、ドリルパークを活用して反復学習を行うことで、知識・技能の正答率を高めていく。</p>
<p>【理科】</p> <p>○自ら進んで、自然の様子を観察したり実験したりしようとしている生徒が80.3%（全国平均+18.3%、市区町村+11.9%）いることは成果としてあげられる。</p> <p>○実験や観察、調査の結果をまとめてレポートに書いている生徒が75.5%（全国平均+23.4%、市区町村+10%）いることも成果である。</p>	<p>●引き続き実験や観察、調査の結果をまとめてレポートに書く活動を続けていく。その中で科学的思考を養っていきけるよう工夫を行っていく。</p> <p>●ドリルパークを月曜日と水曜日の朝、各自の課題に基づいて行っている。この学習状況を各教科で確認し、弱点分野を授業の中で補充していく。</p> <p>▼ディスプレイ型電子黒板の活用方法を研究し、ICTの良い部分を授業に取り入れていく。</p>

<p>【社会】</p> <p>▽〇区の学力調査によると、知識技能については区平均より 2.8%低い値で出たものの、思考判断表現については上回ることができていた。しかし、全体的な平均値では、地理においても歴史においても区平均に届かず、特に基礎における差が目立つこととなった。</p> <p>○授業アンケートにおいて、視覚教材に対する肯定的回答がどの学年も 90%前後であったことから、文章のみでなく視覚によってイメージをつけることが生徒たちにとって大きな効果を感じられるものであると考えられる。</p>	<p>●各單元における知識や技能の定着を図るために、一問一答形式での復習が行えるドリルパークや教材の活用を今後一層取り入れるようにする。</p> <p>●モニターによるパワーポイントでの説明は、興味関心をひくとともに、具体的な理解に繋がっているため、引き続き行っていく。</p> <p>▼文章を読み取り、問われていることに正答することを苦手とする生徒が多いため、授業の中で文章による説明を積極的に取り入れ、知識に基づいた思考の力を伸ばせる工夫をしていく。</p>
<p>【英語】</p> <p>○新宿区学力調査の結果（平均正答率）において、全ての項目で新宿区の平均を上回っており、特に「短答式」で中学 1 年は 15.0、中学 2 年は 10.5 と 10 ポイントを超えている。これは授業内に対話活動を多く行っているため、既習の文法を繰り返し使っていることから知識が身についた結果であると考えられる。</p> <p>○都学力調査アンケート「(5) 英語の授業の内容はどのくらい分かりますか。」という質問に、生徒全体の 78.7%が「よく分かる」「どちらかといえば分かる」という肯定的に回答している。これは少人数授業を実施して生徒の学習状況が把握しやすく、生徒の実態に合った指導が概ねできているからであると考えられる。</p> <p>▽新宿区学力調査の学力層の推移から、中学 1 年、2 年ともに A 層が約 40%、A 層と B 層を合わせると 60%を超えている。しかし一方で、30~40%の生徒は C 層、D 層である。特に D 層は 1 年と 2 年ともに約 17%である。</p>	<p>●次年度の授業でも対話の中で新しく学んだ文法を繰り返し使えるような活動をたくさん取り入れて、生徒が話していく中で習得できるように指導していく。また、単語テストで語彙力の強化や、単元テストで学んだ文法の復習、確認をするなど、話すことだけでなく書くことでも授業内で使えるように工夫していく。</p> <p>●授業の時に生徒の学習状況の把握に努め、小テストや単元テストの結果から生徒の実態を把握して、授業に活かせるようにする。また、A 層、B 層の生徒についてはワンランク上の質問をしたり、C 層、D 層の生徒が授業内容でわからないことを質問しやすくしたり、学習に躓かないような生徒が話しやすい環境の整備をしていく。</p> <p>▼次年度は D 層が 15%を下回るように指導していく。学習状況を改めて確認し、学習時に何が必要かを分析して授業に臨むようにする。少人数授業で声をかけやすいから、積極的にアドバイスをしていく一方で、発言や発表する機会を与え、成功体験をさせることで学習意欲を高めるなど工夫をしていく。</p>